

# 会 議 録

## 1 会議名

平成27年度第9回中郷区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### （1）報告（公開）

勝馬投票券場外発売所立地関連地域振興基金廃止に関する意見書の回答について

### （2）その他（公開）

## 3 開催日時

平成27年11月19日（木）午後6時30分から午後7時55分まで

## 4 開催場所

中郷区総合事務所 第4会議室

## 5 傍聴人の数

1人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：岡田雅範、岡田豊、岡田龍一、坂田浪平、高橋達也、竹内昭彦、  
竹内朗、竹内靖彦、古海博康、山内敏夫、山崎新一、陸川昇一
- ・ 事 務 局：高橋一之財務部長、市川重隆用地管財課長  
小嶋久雄中郷区総合事務所長、山田弘次長、柳崎清市民生活・  
福祉グループ、教育・文化グループ長  
総務・地域振興グループ 丸山良彦班長、樋口和輝主事

〔 以下、総務・地域振興グループは総務G、市民生活・福祉グループは  
市民G、教育・文化グループは教育G、グループ長はG長と表記 〕

## 8 発言の内容（要旨）

### 【丸山班長】

- ・ 会議の開会を宣言

**【岡田(豊)会長】**

- ・挨拶

**【丸山班長】**

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

**【岡田(豊)会長】**

- ・会議録確認：「竹内朗」委員と「竹内靖彦」委員に依頼。

報告事項(1)の「勝馬投票券場外発売所立地関連地域振興基金廃止に関する意見書の回答について」当地域協議会が10月1日付にて市長宛に提出した「勝馬投票券場外発売所立地関連地域振興基金廃止に関する意見書」に対して、市長より資料No.1のとおり回答があった。本日は、木田庁舎より財務部長と用地管財課長が来られているので回答書の内容について説明いただきたい。

**【高橋財務部長】**

- ・資料No.1を基に、回答書の内容について説明

**【岡田(豊)会長】**

今ほど、回答書の内容について説明いただいた。このことについての議論は本日行うつもりはない。回答に対する質問や、財政の考え方など、どうしても聞かなくてはいけないことがあったら発言いただきたい。

**【古海委員】**

ただいま説明をしていただいたが、正直なところ説得力に欠けていると感じられる。また、回答書には「変化が生じてきている」旨の表現が繰り返されている。“変化している、”というのは、何か調査した結果のデータに基づくものなのか。それとも感覚的に言っているのか。

**【高橋財務部長】**

誘致する前はどのような施設で、どのような変化が生ずるか予想がつかず、特に風紀上の大きな不安があった。しかしながら、実際に開設して20年近く経ったが、当初感じられていた不安や支障というのが今現在も続いているのか考えた場合、大きな支障はないのではないかとと思われる。公設のギャンブル施設に対する社会一般の見方というのも、設置した頃に比べて変わってきているのではないか。また、地域事業費制度の見直しでは、当事業がスタートした時点では、この勝馬基金の存在というのは、

財源を当てにして事業を行うと考えるのは当然のことであって、当時は計画を立てて、例えばひばり荘の改築費用に使うなどした。地域事業費は先ず事業費の削減があって事業の管理そのものに変化していった。そのような変化があったため、基金に対する考え方も変化が生じてきたと認識している。慰謝料については、当初大きな不安があったということで、精神的な苦痛などがあったことは理解している。そのような対価として支払われるということであれば、現在はそのような状況ではないのではないのか。これらのことから、変化が生じてきていると表現をした。

**【岡田(豊)会長】**

確認させていただきたい。古海委員の質問は、何かのデータによるものなのか、市の感覚なのかということであった。今の発言は市が捉えている感覚であって、データに基づくものではないということでしょうか。

**【高橋財務部長】**

今、申し上げたことについては、意識アンケートをとるなどした回答結果によるものではなく、データ自体は存在しない。このため、感覚といえば感覚である。本当に支障があったかは地元の住民の皆さんが判断すべきと考える。

**【古海委員】**

当初、不安を感じていたことが何も起きていないという発言だったが、誘致する時、山形県の同類施設を見てきた。実際に見て、それで賛成の立場となった。セキュリティの問題があり具体的には話し辛いですが、20年間何もなかったのは事業者も相当注意し努力した結果だと思う。それ故に世間の見方も変わってきたというのはひとえに結びつかないと思う。

**【竹内(靖)委員】**

この回答書の内容では、納得は到底できない。何故かという、10年前中郷村は上越市と合併するか、妙高市と合併するか、それとも中郷村のままでいくか究極の選択を迫られた。その時の上越市の説明としては、中郷村は上越市の南の玄関口として今後も活性化していきたいということであった。それとともに、中郷村の良いところは残すとは言ったが、特定の財源を無くすという話は毛頭無かったはずだ。これは、私の記憶のみならず、ここにいる協議会委員の誰もが記憶していることである。それが、10年経って時代は変わったなどと文言を差し伸べ、これは時代の流れだと一言で片を付けられるのはどうしても納得できない。また、中郷区内全町内会長連名による意見

書提出に対する要望書があったかと思うが、これは中郷区全ての住民の要望であることを意味している。このため、当地域協議会において白黒つけるだけでなく、中郷区民に対し行政としてきちんと説明していただかないと、今後前に進めることはできない。また、先ほど施設におけるゴミの問題はないと発言されていたが、実際にはどれほど不法投棄があるのか承知しているのか。毎年、春と秋にまちづくり振興会や観光協会、商工会などが協力し奉仕活動を行っている。すべてがオープスに来られたお客さんのゴミとは言わないが、ゴミの分別をみれば大体分かる。このように、中郷区民が奮闘していることをしっかり認識しておいていただかないと、単に「問題ない」の一言で済まされるのは憤慨だ。市は実際に現地へ足を運び、状況の確認をしていただきたい。

**【高橋財務部長】**

ゴミの問題については、現在の状況を教えていただき感謝する。そのような活動を行っているとは認識していなかったため、今後考慮していきたい。

**【坂田委員】**

両手で掴んだ水は一滴も漏らさない姿勢で説明されたと解釈している。しかしながら、この基金は、これまで中郷区の発展に大きく貢献したものであることから、この辺りの見方も加味したうえで発言をしていただきたい。リストに載っているから一律廃止するというのでは芸もないし重みもない。このようなやり方をすれば存続も可能なのではないかという言葉がないのは非常に残念だ。また、回答文に「今後、基金を維持していく上で必要な財源を確保することが次第に難しくなっている。」との記載があるが、これは交付金の額が減ってきたからなのか。額の大小は時の流れである。私にはこの文言の意味がわからない。交付金の額は中郷区や上越市が一方的に決めているわけではない。「次第に難しくなっている」考えをお聞きしたい。

**【高橋財務部長】**

基金が有効に活用されてきたことに対する見解については、冒頭の説明の中でも少し触れさせていただいたが、この基金の果たす役割というのは大きかったと思っている。ひばり荘やデイサービスセンター、中郷小・中学校の改修費用に充てられてきたこともあり、有効活用されてきたと考えている。また、中郷中学校はそう遠くない将来には大規模改修を迎えなければならない時期にきている。これに伴う財源については、基金の有無を問わず事業の必要性或いは中郷区の皆さんが議論することとして、

実施の時期や内容などを議論することが大事であって、これに何の金を充てていくかは市の担当部署に任せていただきたい。税を使うのか、基金のお金を使うのかというのはそんなに大きな問題ではない。むしろ、事業を行う行わない、或いは、その内容が大きな問題となる。地域事業費制度があったときは、基金の存在というのも大きな役割を果たしてきたと思う。事実、それがあって財源が助かっているという面も財政上のメリットとして挙げられる。中郷区で必要な事業というのは、全市でも必要な事業であることから税金で賄うべきなのではないか。この問題がきっかけで地域協議会において基金の使途を検討することになった。使途を検討するということは、この地域にとって必要な施策や事業は何か議論することであり、大に行っていただきたい。これは、地域協議会の役割の中でも大切なことだと考えている。このため、皆さんが議論をしていくことについては評価している。決してマイナス面だけを論じているわけではない。皆さんの議論が地域の振興のための事業に結びつけばありがたいと思っている。また、回答文に記載してある「今後、基金を維持していく上で必要な財源を確保することが次第に難しくなっている。」ことについては、交付金そのものが合併時の金額と比べると約 1/3 に減少し 6 百万円前後になっている。一方、施設までの除雪経費としてほぼ同額市が負担している。このように、維持をしていくのが精一杯のところまで落ち込んでいる状況になっているからである。

#### 【坂田委員】

基金の交付金額と除雪経費を比べることについては、議論が足りていない。この文言がそのような背景のもと記載されたのであれば、この路線はそもそも冬場はオープスに行く人しか利用していない。現在はオープスと市が折半し除雪費を負担しているが、全額オープスで負担してもらおうなど検討の余地があるのではないかと。

#### 【岡田(豊)会長】

合併時において、地域事業費は例えば中郷区には幾らというように決まった。その後、我々は苦渋の選択で 2 割カットに応じた。それから、枠の廃止をして項目別ということになった。有効活用ということで、地域事業費の実施の中で、ひばり荘の改築というのは項目に挙がっていた。本来であれば、同荘の改築は、この基金を取り崩して行う内容ではない。しかし、我々としてはどうしてもということで、取り崩しを提案して行った。このことについては、言い方は悪いが市は丸儲けしていることになる。地域事業費そのものについても、この 10 年の間で使わないでよいものは使わない、そ

のような判断の中で削減努力をしてきた。その辺りを財務部長としてどのように捉えているのかお聞きしたい。また、回答文の中に「必要な事業には一般財源を用いて確実に事業を実施してきました。」との記載があるが、この10年間の中で中郷区においてはインフラ整備はほとんど済んでおり、大きな事業というのはあまりない。また、比較的大きな事業についても自衛隊からの調整交付金を使い事業を実施してきた。必要な事業とは具体的にどの事業のことを言っているのか明らかにしていただきたい。

**【高橋副会長】**

関連してだが、先ほどの説明の中で「基金在りき」の発言があった。中郷区地域協議会においては「基金在りき」という考えは毛頭ない。この発言については撤回していただきたい。また、ひばり荘の話もあったが、本来ならばこれは地域事業費でやるべきものである。耐震問題やアスベストの問題があったことから、これを待っていたら工事がいつになるか分からないため、苦渋の判断をしたということだ。安易にこの基金を取り崩した、「基金在りき」ということで捉えてもらおうと非常に憤慨である。

**【高橋財務部長】**

地域事業費制度については、私もその当事者として関わっていた。平成19年度の夏だったと思うが、今の総合計画の前の計画において財源に裏打ちした計画を作るということで、新市建設計画の財政計画をローリングしたところ、違算というか大きな誤りがあり見直しをする必要性が生じた。そのしわ寄せが建設事業にならざるを得ないという結論になった。その際に2割のカットをお願いした。当時は私も各地域協議会を回らせていただき、苦渋の決断だったと思うが、皆さんから認めていただいた。その経緯も十分承知している。その後、地域事業費制度の見直し、これは平成23年度頃だったと思うが、見直しの時も私は承知している。勿論、素直に理解されたとは思っていない。いろいろと工夫され、事業の組換えなどを考えていただいたうえで吞んでいただいたと認識している。地域事業費制度というのは、この10年のスパンの中で考えられた制度だと思っている。したがって、この10年間の中でどのようなことを行っていくか考えるわけだが、では10年経ったら地域事業というのは無いのかというところではない。今後10年、20年、30年先も地域に係る課題というのは存在する。そこをいかに解決していくかというところが大事なことだ。それぞれの枠というのは無くなったが、事業管理にすることによって、11年目以降についてもそれぞれ課題を挙げてください、税の中で配分するということが、私は適切な手法だと思っている。確か

にひばり荘を建設する際に、基金を取り崩した。これは、一般財源でやれるものが基金を使わざるを得なかった事情も承知しているつもりだ。このことによって、基金の額は減少したが、減少したといっても今後発生するであろう事業については、例え基金が少なくなったからといって少ない額でしかやれないのかということそうではない。基金の額を超える一般財源を投入してでも行うべき事業は行う。また、一般財源を用いて行った事業については、今すぐに具体的な事業名を挙げることはできないが、例えば自衛隊からの調整交付金を使ったとしても、一般財源の持ち出しというのはある。総合事務所の改修なども、これから相当な金額を投じて行うつもりだ。中郷中学校の大規模な改修についても、そう遠くない将来には予定されている。確かに、この10年間においては見た感じでは大規模なものは無かったかもしれない。ただ、10年目以降についても目を向けると、該当する事業が幾つかでてくるかと思われる。また、「基金在りき」という表現は、言葉使いとして不適切なのではないかということであるが、地域の課題やニーズに応じて今後検討いただきたいということで、今後の議論の在り方について申し上げたものである。今までも「基金在りき」で物事全てを行ってきたということを申し上げた訳ではないので、行き違えがあったら申し訳ない。

**【岡田(龍)委員】**

端的に答えてもらいたい。今後、地域としての意見を聞いていただける姿勢はあるのか。

**【高橋財務部長】**

地域としての意見は聞くつもりはある。この回答だけで解決するとは思っていない。こちらの回答を受けて、この先自主審議で議論を行っていくと思われる。特に今、使途について検討しているとのことであるため、使途の検討の結果について意見書がでるのか違う形が出るのかわからないが、地域協議会として何らかの対応があるものと考えている。まったく意見を聞き入れないという姿勢ではないということをご理解いただきたい。

**【竹内(朗)委員】**

オープスは、村当時から必要ない施設だとずっと思っていた。それは合併後10年経った今も変わらない。このため、交付金が減ったとか合併後に出来たオラレ上越と比べられても何も感じない。基金を無くすというのであれば、いっそのことオープスを中郷区から別の場所に移してもらいたい。

**【高橋財務部長】**

基金廃止に伴い、オープスをどこかに移すといったことは考えていない。

**【竹内(昭)委員】**

回答書の内容については、ある程度感覚的なもので書かれているということであるが、今後実際に足を運んで現地の調査をしたり、住民の意識調査などをする気はあるのか。

**【高橋財務部長】**

オープスの存在そのものにおける意識調査やアンケートは考えていない。ただし、私共が知り得ないゴミの問題などについては、本当に支障がないか地域の方によくお聞きし、事実として捉えていきたい。

**【岡田(豊)会長】**

竹内(昭)委員が言っているのは、ゴミなどの支障の内容ではなく、例えばギャンブルに対する考え方やオープスからの交付金に対する考え方などについて住民から意見を聞くつもりはあるのかということだ。

**【高橋財務部長】**

社会一般の公営ギャンブルに対する見方や、中郷区にある現有施設に対してどう考えていくかは主観的な部分で申し上げた。これについての調査というのは特段考えていない。

**【山崎(新)委員】**

過去の経緯もあることから地域協議会としても慎重に議論をしている。当時の基金の創設から10数年が経過した訳だが、その間様々な条件が重なり減額になった。将来的にみて基金は果たして必要かどうか検討したのか。また、基金は当然のことながら目的をもって創設しているが、市の考え方を捉えてみると、一般財源化していった場合、例えば市の予算が1千億円のところ、6百万円と僅かな金額を投入した場合、市は施策によって住民のために事業を配分し実施していくと思われるが、中郷区にとっては何処にどのように使われていくのか、全く分からない環境になってしまう。ただ、施設がそこにあるだけになってしまう。この点についてどう考えているか。

**【高橋財務部長】**

基金の在り方についてだが、合併する前からの考え方を踏襲して基金を継承している。基金条例の目的も、村時代からの教育と福祉に充当するというものを踏襲し、こ



れまで使ってきたという認識を持っている。また、一般財源化についての考え方だが、確かに1千億円を超える事業費の中で、交付金で言えば6百万円、残高でいえば5千万であり、全体の割合からすれば僅かなものになる。帰着するのは財政上の問題ではなく、地域自治、地域予算の在り方になると思っている。これだけの金額があるからその区的意思決定の仕方も問題があるかと思うが、プラスアルファでお金で考えることは他区と比較した場合、果たして正しいのかというのが、今回の大きな課題なのではないかと考えている。先ほど申し上げた通り、中郷区にとって必要な事業というのは、税の再配分や地域活動支援事業や地域を元気にする提案事業などにより地域の皆さんの意見を反映させる制度と相まって働くものだと考えているため、地域の予算という議論のスタートに立つためには、やはり基金というものを一般財源化し、共有の財産としたうえで地域予算や地域自治の財源の在り方を論じるべきだ。単に、金額の問題ではない。

**【岡田(豊)会長】**

今の説明の中に、用地管財課長が以前話した内容と一部食い違う部分がある。それはお互いよく話をし、市としての考え方をだしていただきたい。山崎(新)委員は6百万円を1千億円の中にどうやっていくのか、そういう話をしている。財務部長は残高の5千万円という話をしたが、我々はそのような頭はない。

**【高橋財務部長】**

認識がずれているとの指摘をいただいたことは申し訳ない。皆さんが問題視されているのは組合からの交付金のことなのか。6百万円と5千万円との使い分けが、私のほうでは理解が不足していたかも知れない。

**【岡田(豊)会長】**

理解が不足していると言わざるを得ない。基金残高の処置の仕方については、用地管財課長と財務部長とでは食い違っている所がある。きちんと調整をしていただきたい。それから、今後大きな事業が予想されるということであるが、予想というのは机上に挙がってきているものとする。例えば、小学校にしても中学校にしても大規模改修が必要だと、すでに教育委員会から挙がっている案件なのか。そのようなものがあれば、きちんと示すべきだ。また、地域を元気にする事業についてだが、創設してからこれまで1件しかない。今、地域を元気にする事業そのものの見直しが言われているが、その点の財務部長の認識がおかしいと思っているが、これに対する見解は求め

ない。

**【岡田(豊)会長】**

皆さん、他に何か質問、意見等はあるか。

ー全委員なしー

**【岡田(豊)会長】**

特になければ、報告事項（１）の意見書に対する回答については、これで閉じることとする。

ー高橋財務部長、市川用地管財課長退席ー

**【岡田(豊)会長】**

続いて、協議事項（１）の「自主審議事項について」だが、今ほど勝馬基金の意見書に対する回答説明があり、皆さんからいろいろと発言いただいた。これに対する意見も多々あるかと思うが、本日は自主審議は行わず、各自これからじっくりと考えていただき、次回の地域協議会において改めて回答に対する意見について検討することとしたいか如何か。

ー全委員賛同ー

**【岡田(豊)会長】**

それでは、続いて「その他」に移るが、事務局何かあるか。

**【樋口主事】**

- ・視察研修における連絡事項と、地域協議会だより第２号の発行日変更について報告

**【岡田(豊)会長】**

委員の皆さんから、他に何かあるか。

**【竹内委員】**

- ・まちづくり振興会より二本木駅のトイレ改修についての要望と、新年を祝う会の案内について連絡

**【坂田委員】**

- ・まちづくり振興会生活環境部より、上越市生活環境大会で同部が公衆衛生功労者表彰を受賞した旨報告

**【岡田(豊)会長】**

他に発言がないため、これをもって、本日の会議を終了する。

次回の会議は、12月16日(水) 午後6時30分から、「中郷区総合事務所」で行うこととする。

(終了 午後7時55分)

## 9 問合せ先

中郷区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 0255-74-2411

E-mail:nakago-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

## 10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。